

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
夜間セミナーのお知らせ

アン・ウォルソール先生
「ジェンダー研究からみる日本の歴史」
”Japanese History from
the Perspective of Gender Studies”

ジェンダー研究センターでは、2000年4月6日から9月27日まで、アメリカよりアン・ウォルソール先生を客員教授としてお迎えしています。先生は、日本近世史・女性史がご専門です。江戸期の百姓一揆の研究をはじめ、松尾多勢子の伝記研究などのご著作があり、最近では江戸城の大奥をテーマにしたご研究をすすめていらっしゃいます。

1991年より、カリフォルニア大学アーヴァイン校歴史学科教授です。当研究センターでは、「ジェンダー研究からみる日本の歴史」をテーマに、女性史の方法論をレクチャーしていただくとともに、具体的な題材として「大奥」をとりあげたセミナーを以下の日程で開催いたします。

略歴

- 1969年 ウィスコンシン大学 日本語学・文学 学士号取得
1973年 シカゴ大学 東アジア史 修士号取得
1979年 シカゴ大学 日本史 博士号取得

主な業績

1991, *Peasant Uprisings in Japan: A Critical Anthology of Peasant Histories*, University of Chicago Press.

1998, *The Weak Body of a Useless Woman: Matsuo Taseko and the Meiji Restoration*, University of Chicago Press.

1995, 「貞女/悪女：陰に隠れた女と百姓一揆」(長野ひろ子訳) 『日米女性ジャーナル』 no. 19 (December 1995) 111-130. = 1994, *Devoted Wives/ Unruly Women: Invisible Presence in the History of Japanese Social Protest*, in *Signs: Journal of Women in Culture and Society*, 20.1 (Autumn 1994): 106-136.

5月17日(水) 18:30~20:30

Seminar 1 アメリカにおけるジェンダー史の方法論—日本の事例を交えて—

コメンテーター：長野ひろ子氏（中央大学経済学部教授）

<参考文献>

ジョーン・W・スコット, 1992, 『ジェンダーと歴史学』(荻野美穂訳), 平凡社=Joan W. Scott, 1988, *Gender and the politics of history*, Columbia University Press.

ジョーン・スコット, 1996, 「女性の歴史」, ピーター・バーク編, 『ニュー・ヒストリーの現在: 歴史叙述の新しい展望』(谷川稔他訳), 人文書院=, Peter Burke (ed.), 1991, *New perspectives on historical writing*, Polity Press.

アン・ウォルソール, 1995, 「貞女/悪女: 陰に隠れた女と百姓一揆」(長野ひろ子訳) 『日米女性ジャーナル』no. 19 (December 1995): 111-130.=Anne Walthall, 1994, *Devoted Wives/Unruly Women: Invisible Presence in the History of Japanese Social Protest*, in *Signs: Journal of Women in Culture and Society*, 20.1 (Autumn 1994): 106-136.

5月24日(水) 18:30~20:30

Seminar 2 アメリカにおける日本のジェンダー史—セクシュアリティの歴史学の動向をふくめて—

<参考文献>

Gregory M. Pflugfelder, 1999, *Cartographies of Desire: male-male sexuality in Japanese discourse, 1600-1950*, Univ. of California.

氏家幹人, 1995, 『武士道とエロス』, 講談社現代新書。

Gail L. Bernstein (ed.), 1991, *Recreating Japanese Women: 1600-1945*, University of California Press.

5月31日(水) 18:30~20:30

Seminar 3 フェミニスト伝記の理論研究—日本の事例を交えて—

コメンテーター：菅聡子氏（お茶の水女子大学文教育学部助教授）

<参考文献>

キャロリン・ハイルブラン, 1992, 『女の書く自伝』(大社淑子訳), みすず書房=Carolyn G. Heilbrun, 1988, *Writing a woman's life*, W. W. Norton.

アン・ウォルソール, 1995, 「松尾多勢子と明治維新—自己とジェンダーのテキスト—」, 脇田晴子・S. B. ハンレー編 『ジェンダ-の日本史—主体と表現仕事と生活—』, 東京大学出版会。

6月14日(水) 18:30~20:30

Seminar 4 フェミニスト伝記史料論—松尾多勢子伝の事例から—

コメンテーター：柴桂子氏

<参考文献>

Anne Walthall, 1998, *The Weak Body of a Useless Woman: Matsuo Taseko and the Meiji Restoration*, University of Chicago Press.

柴桂子, 1994, 『会津藩の女たち—武家社会を生きた十人の女性像—』恒文社。

柴桂子, 1997, 『近世おんな旅日記』吉川弘文館。

6月21日(水) 18:30~20:30

Seminar 5 隔離の比較史—宮殿という場における隔離された女性の比較研究—

コメンテーター：窪添慶文氏(お茶の水女子大学文教育学部教授)

鈴木董氏(東京大学東洋文化研究所教授)

<参考文献>

長野ひろ子「幕藩制国家の政治構造と女性—成立期を中心に—」『日本女性史論集2 政治と女性』吉川弘文館, 1997年。

7月5日(水) 18:30~20:30

Seminar 6 「大奥」—民衆はどのように「大奥」をみていたのか—

コメンテーター：岩城紀子氏(江戸東京博物館)

<参考文献>

畑尚子, 1998, 「奥女中奉公について(研究ノート)」『東京都江戸東京博物館研究報告』no. 3, (1998年3月号): 137-160。

松尾美恵子, 1992, 「江戸幕府女中分限帳について」『日本女性史論集2 政治と女性』(所収), 吉川弘文館, 1997年。

(すべて水曜日 18:30~20:30)

場所：お茶の水女子大学附属図書館 第二会議室 (1階)

第2回のセミナーを除きましては、講義の後コメンテーターによる質疑をおこない、引き続き参加者で議論を深めていく予定です。レクチャーは主に日本語で行なわれます。フロアからも、どうぞ積極的にご発言ください。

参加をご希望される方は、所定の応募用紙にご記入の上、5月9日(火)午後2時必

着で、当研究センター宛に Fax または郵送でご送付ください。セミナーの性質上、参加人数が限られますので、原則として毎回参加できる方を優先します。応募者多数の場合、やむをえず抽選とさせていただきますことがありますのでご了承ください。ご参加いただけない場合は、5月12日(金)までに E-mail か Fax、電話にて、こちらから連絡させていただきます。

なお、当日、資料代(実費)を申し受けます。

また、本年9月23日(土)に、ウォルソール先生の公開シンポジウムを開催いたします(時間 午後2:00—5:00, 場所:お茶の水女子大学)。タイトルは「民衆文化における『大奥』—江戸城の女中たち—(仮題)」を予定しています。

参加自由で、人数の制限はありません。ご関心のある方をお誘いあわせのうえ、お越しください。参加希望の方は、後日配ります案内をご参照のうえ、Fax または郵送にてお申し込みください。また、講演会では資料代(実費)をいただきます。

夜間セミナーおよびシンポジウムに関するお問い合わせは、ファックスまたは郵送にて事務局・森本宛にお願いいたします。電話でのお問い合わせは、ご遠慮ください。

アン・ウォルソール先生セミナー・シンポジウム実行委員会

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長

波平恵美子

人間文化研究科教授

大口勇次郎

文教育学部教授

市古 夏生

ジェンダー研究センター教授

館 かおる

文教育学部教授

高島 元洋

人間文化研究科助教授

内田 史賢

文教育学部助教授

頼住 光子

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

住所 : 〒112-8610 文京区大塚 2-1-1

Fax : 03-5978-5845 (事務局・森本宛)

地下鉄丸の内線茗荷谷駅, 地下鉄有楽町線護国寺駅よりいずれも徒歩10分